

## 岡山大学の理念、目的等 / 薬学部の教育理念・目標

### 1 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかなければなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

### 2 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食糧、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

### 3 岡山大学の教育理念・目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。

これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

#### 教育理念

- ・ 自然と人間の共生を希求する。
- ・ 多様な文化・価値観を尊重する。
- ・ 地域と世界の発展に寄与する。

#### 教育目標

- ・ 探求・創造する知性の育成 —自ら問いかけ学ぶ教育—
- ・ 豊かな教養と高度専門性の追求 —知の体系に根ざし専門を伸ばす教育—
- ・ 異文化理解に基づいた国際性の獲得 —様々な文化・民族に親和する教育—
- ・ 社会的責任を担いうる個の確立 —自己と他者を認め合う教育—

### 4 薬学部の教育理念・目標

薬学部は、①薬学に関する基礎及び応用の科学並びに技術を修得させること、②薬学に関連する社会的使命を正しく遂行し得る人材を養成すること、③薬学に関する研究を遂行して社会の発展に寄与すること、を目的としています。

## 【 参 考 】

### 岡山大学管理学則

(大学の目的)

第10条 広く知識を授け深く専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的及び応用能力を展開させ、日本国家及び社会の有為な形成者を育成するとともに、学術の深奥を究めて、世界文化の進展に寄与することを目的とする。

# 薬学を学ぶ学生諸君へ

岡山大学薬学部は次のような目的を持って、昭和44年に医学部薬学科として設置されました。

- 1 薬学に関する基礎及び応用の科学並びに技術を修得させること
- 2 薬学に関連する社会的使命を正しく遂行し得る人材を育成すること
- 3 薬学に関する研究を遂行して社会の発展に寄与すること

この理念のもとで、岡山大学薬学部は平成17年度の入学生を迎えるまでの35年間にわたり教育、研究にいそしんできました。この間、薬の科学は飛躍的に進展し、医療における薬剤師が果たす役割も大きく変化しました。このような状況を踏まえて、国の方針で平成18年度から、全国の薬学部は薬剤師養成をめざす6年制へと移行することになりました。しかし日本の薬学部は薬に関連する多様な人材の育成を行ってきた実績があり、その伝統は引き継ぐべきであるとの認識から、修業年限4年の創薬中心の学科も残すことになりました。岡山大学薬学部でも、本学部が今日まで果たしてきた役割、さらには将来果たさなければならない役割を考慮し、6年制の薬学科と4年制の創薬科学科の2学科を設立することになりました。学生定員は、両学科ともに40名です。

薬剤師養成に6年間の教育を必要とするに至った理由は種々あります。一つには薬そのものの種類が増えたこと、また薬の作用の解析や生体反応の解析も分子レベルで解析される様になり、患者個人での薬の使用方法の決定が求められるような時代になってきたこと、さらに医療現場では薬剤師には調剤だけではなく服薬指導、薬歴管理、薬害防止といった、多くの仕事求められるようになってきたことなどが挙げられます。このようにこれからの薬剤師にはますます多くの知識と、生命や薬に対する高い見識が求められるようになり、薬剤師教育は6年間教育へと移行しました。

一方述べたように、日本の薬学部はこれまでに医薬品の創製（創薬）や薬効の解析に関わる教育にも心血をそそぎ、研究技術者、薬事衛生従事者などの養成に大きく貢献してきました。この貢献は日本の薬業界の発展、医療技術の進展、薬事衛生行政の充実から判断しても、優れた貢献であったと言えます。この伝統は我が国の薬学に特徴的なものであり、欧米にはありません。この伝統を引き継ぐことは日本の発展のためにも必要であるとの認識から薬学部には創薬を中心とした4年制の学科を残すことになりました。

このような状況を踏まえて、平成18年度から岡山大学薬学部にも6年制の薬学科と4年制の創薬科学科が発足しました。それぞれの科にはそれぞれの目的があるのですから、その目的を達成するように教育が行われます。しかし両科ともに「薬」という生理活性を有する化学物質を中心に学問を深めていくことには変わりはありません。ともに薬を化学物質として捉え、化学物質の構造解析や合成、生体の生理・薬理、疾病の成因、環境と生体の関係などをまず勉強します。これらの分野

は両学科での基礎分野であり、両学科で共通します。この共通分野を1年生から3年生にかけて学習します。それに引き続いて薬学科では4年生以降、医療現場で必要とされる知識や技術を身につける講義・実習が行われます。また日々進歩する科学に対応し、将来は医薬に関して世界をリードする人材となるためには、科学的な思考ができる薬剤師でなくてはなりません。そのためには学生時代に科学的研究に従事することは大切と考え、6年制の薬学科の学生にも卒業論文実習を課しています。

また創薬科学では、「創薬とは、単に医薬品の化学合成を意味するのではなく、物質の作用、体内動態、安定性などを考慮しながら、種々の方法で種々の薬効物質を創り出す学問である」との認識で、カリキュラムを編成しています。創薬科学科の3年生以降ではこの創薬に関する勉学が中心となります。また4年生では卒業論文実習が中心です。自分が将来専門とする領域を考慮に入れ、その道でのスペシャリストとなるよう、卒業論文実習に励んでいただきたい。

述べたように薬学では広い分野を学習します。それぞれの分野での知識を吸収し、技能を身につけることは大切です。しかし知識だけでは不十分です。薬学を修めた者として社会に役立つには豊かな教養を身につけるための教養教育をおろそかにすることはできません。特に、薬という人命にかかわる物質を扱う人のモラルは大切であり、倫理、法制度などの人文・社会科学系の教養を身につけておかなければなりません。さらに、医療の場でも研究開発の場でも情報の収集・処理は極めて重要です。また、国際化時代への対応も重要です。これらの分野も学習しなくてはなりません。

このように薬学においては学ぶべき事は無数にあるとあってよいです。このことは平成18年度の入学生からだけでなく、それ以前の入学生にも勿論該当します。カリキュラムの編成にあたっては平成17年度以前の入学生は4年間の教育であり、その4年間に医療薬学、創薬科学の両面を入れ込んだ内容となっています。その分、医療薬学の面においては平成18年度以降の入学生と比べて学習量において劣ります。だからと言って、知識・技量が劣ってもよい事にはなりません。また創薬科学の面においても、4年間の教育期間中に医療教育に時間が割かれた分だけ、実力的にも、また創薬科学に対する研究の集中度においても劣ることになります。これらの不足やデメリットをカバーするためには、学生本人が自覚し、研鑽に励むことが最も大切です。勿論平成18年度以降の入学者も安閑とした態度では「学成りがたし」です。学問に対する真摯な態度こそが諸君を薬学者として大成する道であることを肝に銘じて、勉学に取り組んでいただきたい。